

教宣 せぶん

仏つくって魂いれず

06年度の人権啓発研修を受けました。会社の研修スタンスを一言でいえば、差別発言や差別を助長するような行動は慎むようにというもので、差別を生み出す根っこの考え方を見直そうというものではありませんでした。研修で用いられたビデオの講師は、根っこの問題を訴えているにもかかわらず、研修そのものは残念ながら「うわべだけ気をつければ良いのだ」というものになっていました。根っこの考え方に踏み込まずして、真の人権啓発にはつながらないと思います。

会社はマングローブを植林している企業、地球環境に配慮する企業ということを大々的にPRしていますが、地球環境を壊している「考え方」がどんなものなのかということ考えたことがあるのでしょうか？以前にも紹介したかもしれませんが、インドにチプロコという森と生活をともにする民族がいたそうです。日本の企業によってチプロコが住む森の木が伐採されようとしていました。企業はその森の木を伐採することによって多くの利益が稼ぎ出せるとはじいていました。チプロコの人たちは森の木が伐採されては自分たちも生きていけないと木にしがみついて木を伐採から守ろうとしましたが、企業は伐採をすすめ、何人ものチプロコが木とともに切り殺されたそうです。チプロコという民族は、自分たちが住む森と運命をともにせざるを得なかったのですが、企業のもっと儲けなければならないという考え方、利益第一主義の考え方こそが地球環境を破壊しているのです。もっと言えば、人間のもっと便利に、もっと物質的に豊かになりたいという考え方こそが企業を利益第一主義に走らせているのだと思います。地球温暖化の影響で、今年の冬は極めて暖かく、桜も例年よりだいぶ早く咲くそうです。極の氷河もすでに溶け出しているそうで、このまま温暖化がすすめば、オランダや海拔の低い地域は水没することも予想されています。地球が破壊されようとしている時に、いくらお金を持っていてもなんの役にも立ちません。

地球環境に配慮する企業と宣言するなら、こういった「もっと企業利益を」という考え方そのものにこそメスをいれなければならないと思います。人間が持つ「もっと便利に」「もっと物質的にゆたかに」という考え方にこそ「疑問符」を投げかけなければならないと思います。従業員のクビを切っても、飽くなき企業利益に走るこの会社に、そもそも「地球環境」を語る資格があるのでしょうか？マングローブを植林するよりも企業利益第一主義の考え方を捨てた方がどれだけ地球にやさしい企業かわかりません。

人権を大切にす企業、地球環境に配慮する企業と立派な「仏」をつくるのも良いですが、つくったからには責任持って「魂」を吹き込んでもらいたいものです。